

ARAI NEWS

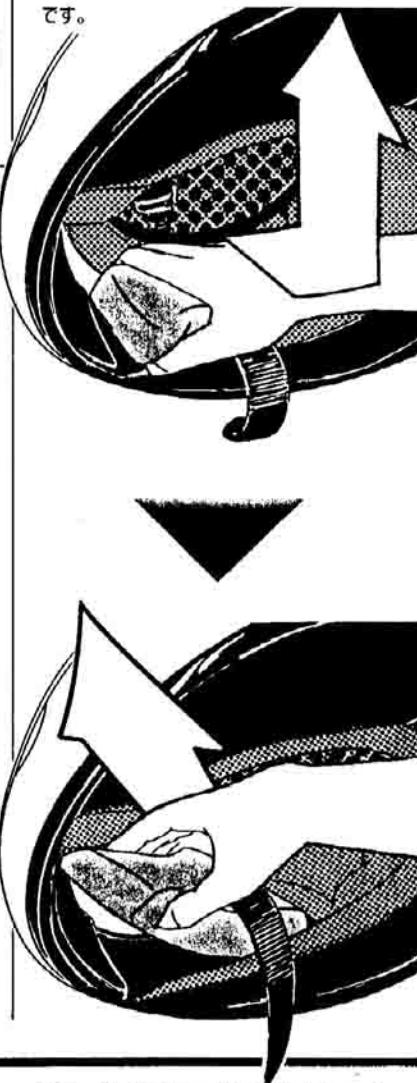


オープンフェイスの日口では、着脱式イヤーパッドを採用しサイズ調整ができるようにさせていただきました。これがフィットにうるさい方に大変好評を博しています。フルフェイスでも是非という声にお答えし、今度のアストロ口では、いよいよ頬パッドの調整が可能となるシステムが採用されることになりました。名付けてシステムパッド。明解にして実戦的な Arai らしいアイデア（特許出願中）です。

では2輪4輪問わず、10数年前から世界中のサーキットで、レーシングサービス活動を行なっています。その中でも頻繁に行なう作業が内装調整です。もちろん契約ライダーでも日割方の選手は、ノーマルのまま満足して下さいます。でも、一部の方は、どうしても標準的な形状と大きく異なるために、よりベストな状態でレースに挑めるように調整しているのです。

この内装調整の中身の殆どは頬パッドの厚み調整です。選手中には、頭部のサイズが同じ（例えば(57-58)）でも、頬が瘦せている選手もいれば、太っている選手もいます。大抵はノーマルでカバーできますが、やはり平均的な選手に比べるとフィット感は違ってします。そういう選手にも、本格的な、

Arai のフィット感を味わっていただくために、レーシングサービスでは、頬が瘦せている人には厚めのパッドに、太めの人には薄めへ、またどうしてもキツメが好きだというような人には好みに合わせても調整しているのです。



こういったレーシングサービスで行なわれて いる調整と同じように、市販製品にも頬パッドの厚み交換を簡単にできるようにしたのがシステムパッドです。確かに頬パッドが簡単に取り替える事が出来れば便利です。しかし、一口に着脱といっても安易には作れません。数多くの試作品が出来ても、安全性に影響を及ぼすものや、しっかりと固定できず走行中に動いてしまうもの、また、何回も着脱している間に最初のフィット感が変わってしまうといった問題が出てしまうのが殆どで、難しい物でした。伝統の Arai のフィット感、そして安全性が少しでもそこなわれるようなものでは Arai は世に出すことはできません。

三回元表記見付法 1. フィット感の確認 2. パッドの厚み調整 3. パッドの取り付け
1. フィット感の確認：ヘルメットを頭に着脱する際の感触を確認する。特に頭部の圧迫感や、耳の位置感などを注視する。2. パッドの厚み調整：ヘルメットの内側に付いている調整用のスクリューを調整する。3. パッドの取り付け：調整したパッドをヘルメットの内側に装着する。ただし、Arai 伝統のフィット感は、まったく失われていません。もちろん安全性や耐久性の問題も十分にクリアされています。レースでの使用に耐えうるフィット感を持ちながら、頬パッドの調整が自分で出来るようになったシステムは世界でも初めてのことです。これからはサーキット走行時とツーリング時のフィッティングを多少変えてみるとなんでも可能になりました。それだけではありません。システムパッドを外して洗濯する事も出来ます。ヘルメット選びのポイントがまたひとつ加わりました。頭のスミにいれておいて下さい。

また一步人間に近付いた
ヘルメット選びの新しいポイント
「システムパッド」

